



# 元気っ子

No 328 ながさわ保育園

園長 中瀬 弦 偉

先月の元気っ子では、好奇心旺盛で主体性をもって生まれてきた赤ちゃんが、大人の関わり方とその内容次第で、主体性を失いもするし、主体的に育ちもするというお話をさせて頂きました。

例えば、「待つ」は主体的ですが、「待たされる」は主体的とは言えません。以前、アメリカのスタンフォード大学で「マシュマロ実験」というものが行われました。対象は4歳児186人、子どもたちは一人ずつ教室に通され、椅子に着席します。そして机の上にはマシュマロが一つおいてあり、実験者は子どもたちにこう言いました。「私はちょっと用事があるので、教室を出ます。机の上にあるマシュマロはあなたたちにあげるからいつ食べてもOKです。だけど私が戻ってくるまで食べるのを我慢していたら、マシュマロをもう1つあげます。私が戻ってくる前にマシュマロを食べたら、2つ目のマシュマロはありません。じゃ、15分したら戻ります」この実験の結果は3分の2の子どもがマシュマロを食べ、3分の1の子どもが食べずに待っていました。

18年後、この実験の対象になった子どもが22歳の時に追跡調査が行われました。すると以下の相関関係が見られました。

- 4歳のときの自制心の傾向は、18年後も続いていた。
- マシュマロを食べた子よりも、食べなかった子の方が学業成績が良かった。

そして、対象者が45歳のときに、さらなる追跡調査が行われ、この傾向は人生の半ばまで続いていることが分かったそうです。つまり自制心やセルフコントロール力を伸ばすことは将来につながりやすいということです。

自制心を育てていくためには、当然ながら「我慢」や「待つ」ことが求められます。「我慢はさせたくない」「欲求は叶えてあげたい」という親心との葛藤が難しい部分ではあると思いますが、「甘えさせる」とことと「甘やかす」ことは全く別物であることを認識しておけば関わりやすくなるかと思えます。例えば、「抱っこして」や「一緒に遊んで」「本読んで」を拒絶することは、子どもの甘えたい気持ちを拒否することになります。それに対して「レジで泣かれたのでお菓子を買ってあげた」「テレビを見せないとグズグズいうので2時間見せてしまった」などは甘やかしです。他にも子どもの気持ちを「全て受け止める」とことと「全て受け入れる」の違いも同様です。この点を意識しながら、時にはルールを設定するなど、生活にメリハリをつける必要があります。

また、先月にも書かせて頂きましたが、子どもが求めていることに対する過剰サービスにも気を付けていきたいところです。主体性を失っていくので、上手いいかないことや楽しくないことを他人やサービスのせいにするようになってしまいますし、主体性がなければ「待つ」こともできません。

この辺りのことは保育の中でも実践させて頂いておりますが、ご家庭での親子の関わりが大きく影響してきます。ご家庭で実践できることはたくさんあります。家庭と保育園が連携しながら「こどもまんなか社会」の実現に向けて、子どもの育ちを支えていけたらと思います。各ご家庭にも悩みや迷いがあったりするかと思いますが、そんな時は是非、園長もしくは主任までお声掛け下さい。答え探しのお手伝いをさせて頂きます。